

平成31(2019)年「正覚寺報」1月号

ご案内

お聴聞は如来様のお育てに遇う大切な営みです。皆様どうぞご縁におあい下さいませ。

除夜会平成30年12月31日(大晦)23時半

修正会(元旦会)平成31年元旦午前7時

仏教婦人会新年会1月16日(水)13時～

一月は年に一度のお楽しみ会を兼ねます。

仏教壮年会総会(未定)

お聴聞の会(御法話会)は、1月は総会です。

正覚寺役員会1月20日(日)19時半～

初講を迎えるに当って原案をご審議戴きます。

初講1月27日(日)午前10時～

新年のご挨拶

皆様、あけましておめでとうございます。

昨年、肉親とお別れ戴いた御門徒様にはお寂しいお正月をお迎えのことと存じますが、どうぞお大事になさって下さいませ。

私達は、如来様のご本願叶って私の上で働いて下さる南無阿弥陀佛と共にありますので、決して死を忌み嫌うことはありません。

亡くなられたお方はお浄土から如来様の大悲のお取次ぎに働き出して下さっていますので、その尊い働きにしみじみとお念仏と共に遇わせて戴くことが大切であります。

蓮如上人は、毎年、年の初めのご法座で道德さんという御門徒さんに対して、“道德いくつになるぞ”とお尋ねになり、“道德念仏申さるべし”と仰せ下さったと承っています。

弥陀浄国の水・鳥・樹林のさえずる音

親鸞聖人は、五人兄弟のご長男でいらっしゃ

いましたが、すぐ下の弟様に尋有(じんぬ)様がいらっしゃいました。このお方は、天台声明に勝れたお方であり、本願寺第三代覚如上人の父、覚恵法師は、この尋有師について声明を学ばれ、覚如上人ご自身もこれを受けて声明を学ばれたと承っております。

覚如上人の著された『改邪鈔』を繙きますと、次のような見事な御言葉が編まれております。

弥陀浄国の水・鳥・樹林のさえずる音、みな宮(きゅう)・商(しょう)・角(かく)・徴(ち)・羽(う)にかたどれり。(註:宮・商・角・徴・羽は、和音階を指します)。

(Ref『改邪鈔』第十四章、註釈版聖典 p933)

親鸞聖人のお師匠の法然聖人がこの国にお姿を現され、真宗を起すに当たって、「**声には、仏事をなすいわれがある**」という謂われにちなんで能声(声の綺麗なこと)の者を選んで念仏を修せしめて、参拝者万人の耳を喜ばせ、随喜させられたと聞かせて戴くことであります。

覚如上人は、「浄土真宗は、信心一つでお救いに与るみ教えである」として信心獲得をお勧めになったのですが、自らも声明の達人として「**声には仏様の大悲に誘う働きがある**」ことを実感していらっしゃったことは否めません。

当用漢字では失われた声の旧字体「聲」は、その形から「声に出して口に称えせしめ、その耳に聞かしめずばおくまい」と読める字です。

年初に当り、如来様から本願力回向して下さったお念仏を称え、称えれば私の上で大行が働き出して下さり、直ちに聞こえて下さる如来様直々のお喚び声に喚び覚まされ、威儀を正して御尊前に座り直したいことであります。合掌。